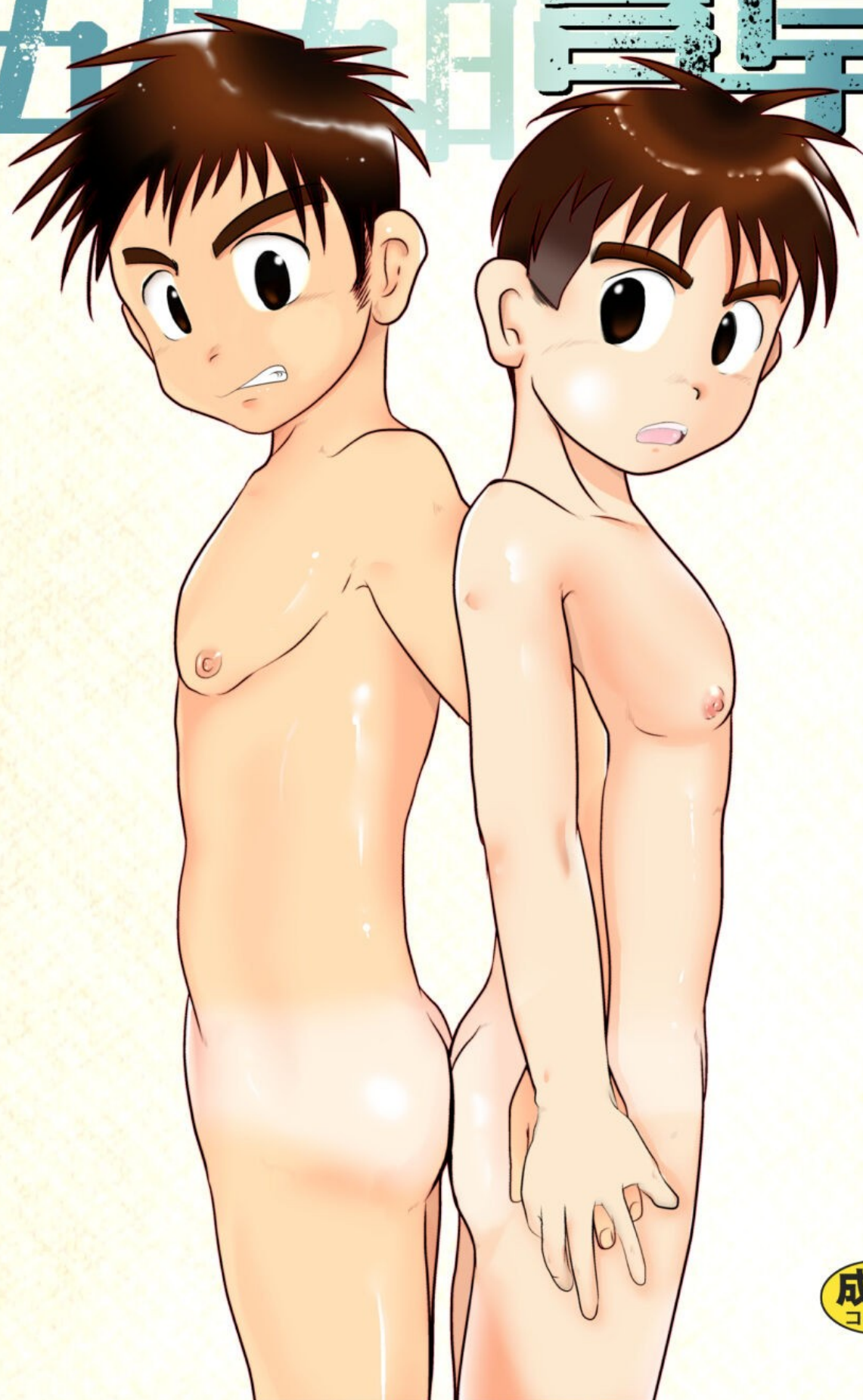


ゴガツイツカセイショウ

# 五月雨 新章



成年  
コミック

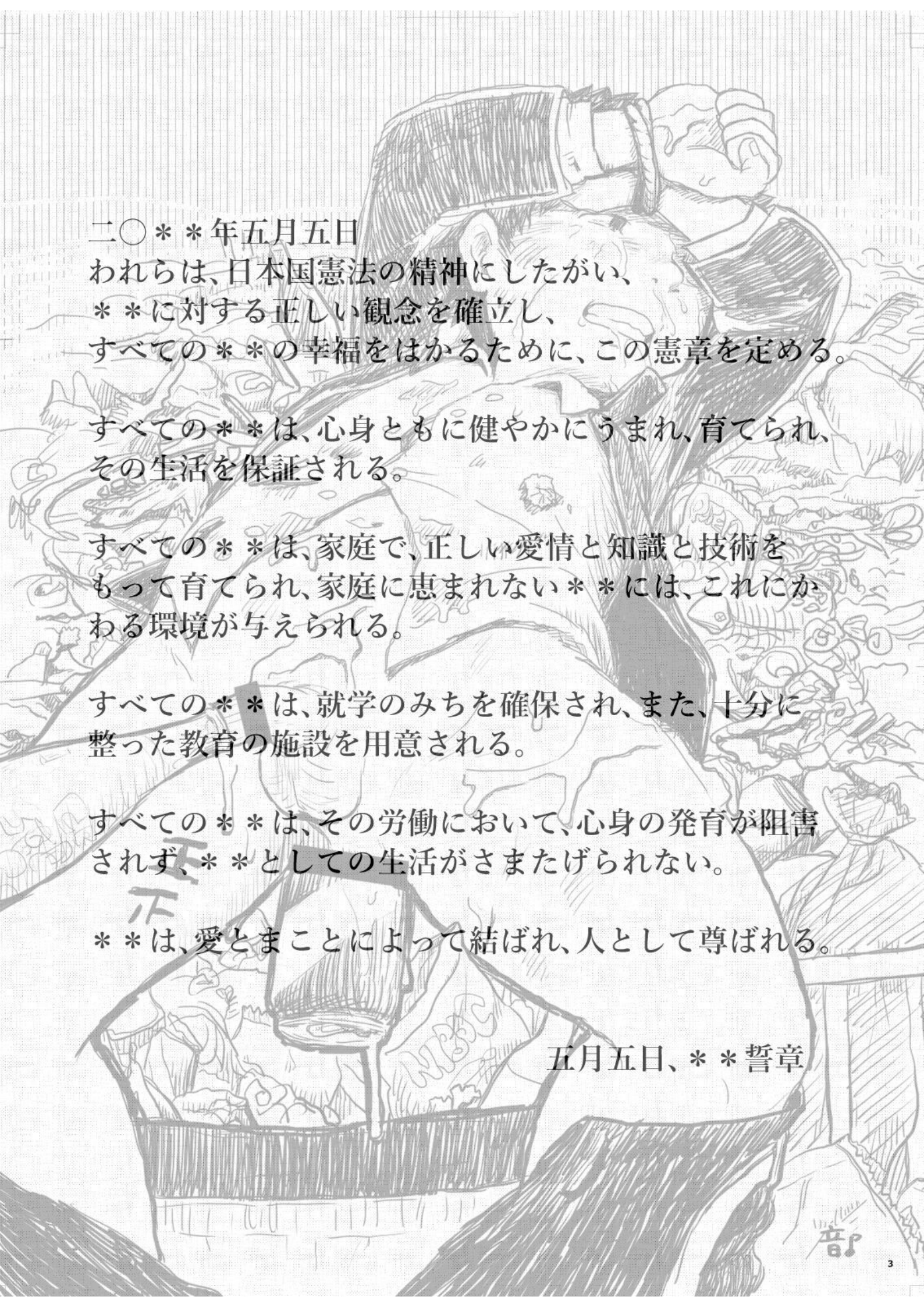


# 少年虐待詞華集、完成。

「少年法では少年とは20に満たないものを指し、この本に登場する少年は18以上となります。ご了承ください。」

ちから





二〇\*\*年五月五日

われらは、日本国憲法の精神にしたがい、

\*\*に対する正しい観念を確立し、

すべての\*\*の幸福をはかるために、この憲章を定める。

すべての\*\*は、心身ともに健やかに生まれ、育てられ、  
その生活を保証される。

すべての\*\*は、家庭で、正しい愛情と知識と技術を  
もって育てられ、家庭に恵まれない\*\*には、これにか  
わる環境が与えられる。

すべての\*\*は、就学のみちを確保され、また、十分に  
整った教育の施設を用意される。

すべての\*\*は、その労働において、心身の発育が阻害  
されず、\*\*としての生活がさまたげられない。

\*\*は、愛とまことによって結ばれ、人として尊ばれる。

五月五日、\*\*誓章



こんな時代に生まれたっていうのに  
人を疑うことを知らない笑顔  
だらしのないポケット  
くしゃくしゃの肌着  
なんて君は眩しくて可愛らしい

これから行われる  
醜悪を知らない君  
摘み取られることを知らない  
小さな存在  
罪悪感と高揚で  
今にも漏らしそうなぼくに気づかず  
君は笑う





数年間守られた無垢が  
ぼくの手のひらの中で  
散っていく  
それが何よりも嬉しい

君の体に刻みこむ  
こんなに好きだって  
これが罪だとしても  
これが悪だとしても





これはただのレイプじゃない  
君の脳みそに君の命に  
ぼくという痕を残す行為  
天国でもぼくを忘れないように  
死んでもぼくのもので居られるように  
灰になっても土になっても  
この汁の匂いが消えないように

君が生まれたのも  
君が死ぬのも  
神様の気まぐれじゃなくて  
全部ぼくの為で  
体だけじゃない  
犯すのは君の魂





小さな君が  
他のどの醜悪も知らず  
そのままでの姿で終わる  
それが何よりも嬉しい

もう三度と会えないのは  
悲しいけれど他に何もいら  
ない  
これがぼくの純愛























パパさんには  
もひとつ  
プレゼント☆



ママaaaaa!

やだあああ!

おおおお!!!

おおおお!!!

パパあー!

おっ!!

おんんっ!!

オっ!!

うおおっ!!

おはようおはよう





おおー!  
今夜は  
ハンバーグかぁ

8月10日 PM17:25 友人宅



8月10日 PM15:14



ほーらヒデト  
帰ったらまず  
何するん  
だっけ?

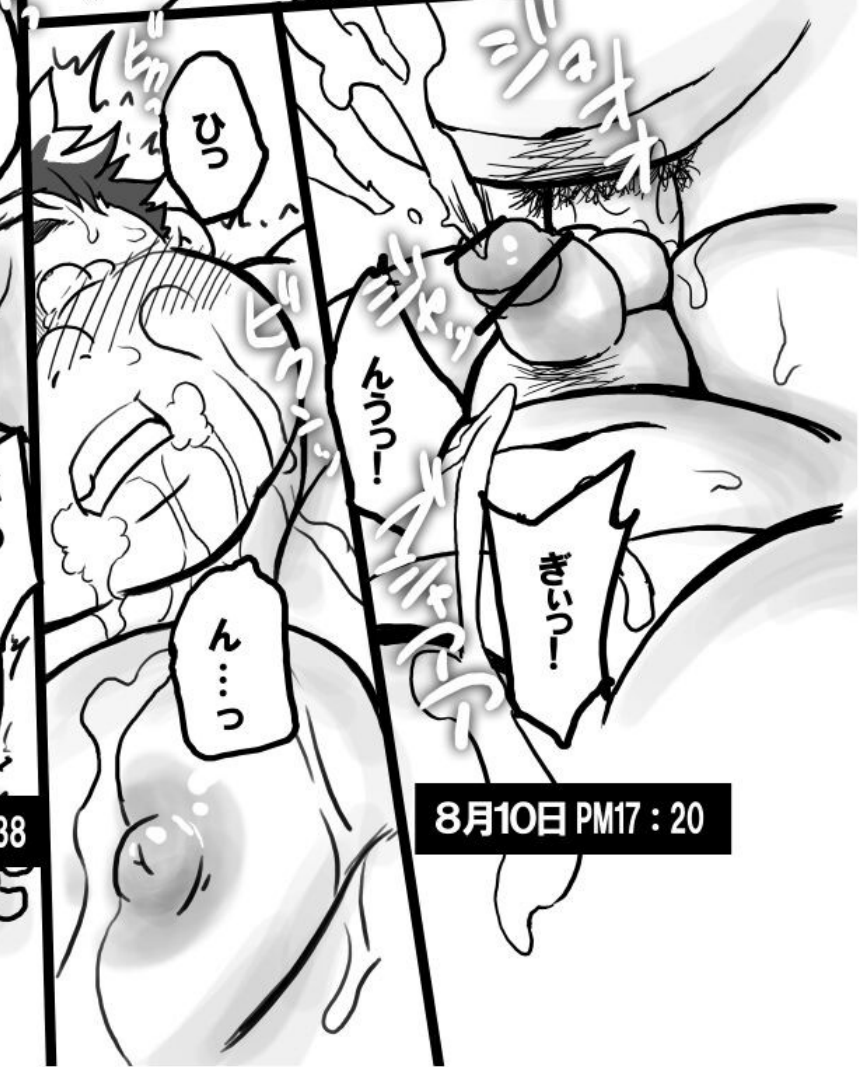


パパの顔  
恐っ!



8月10日 PM18:38

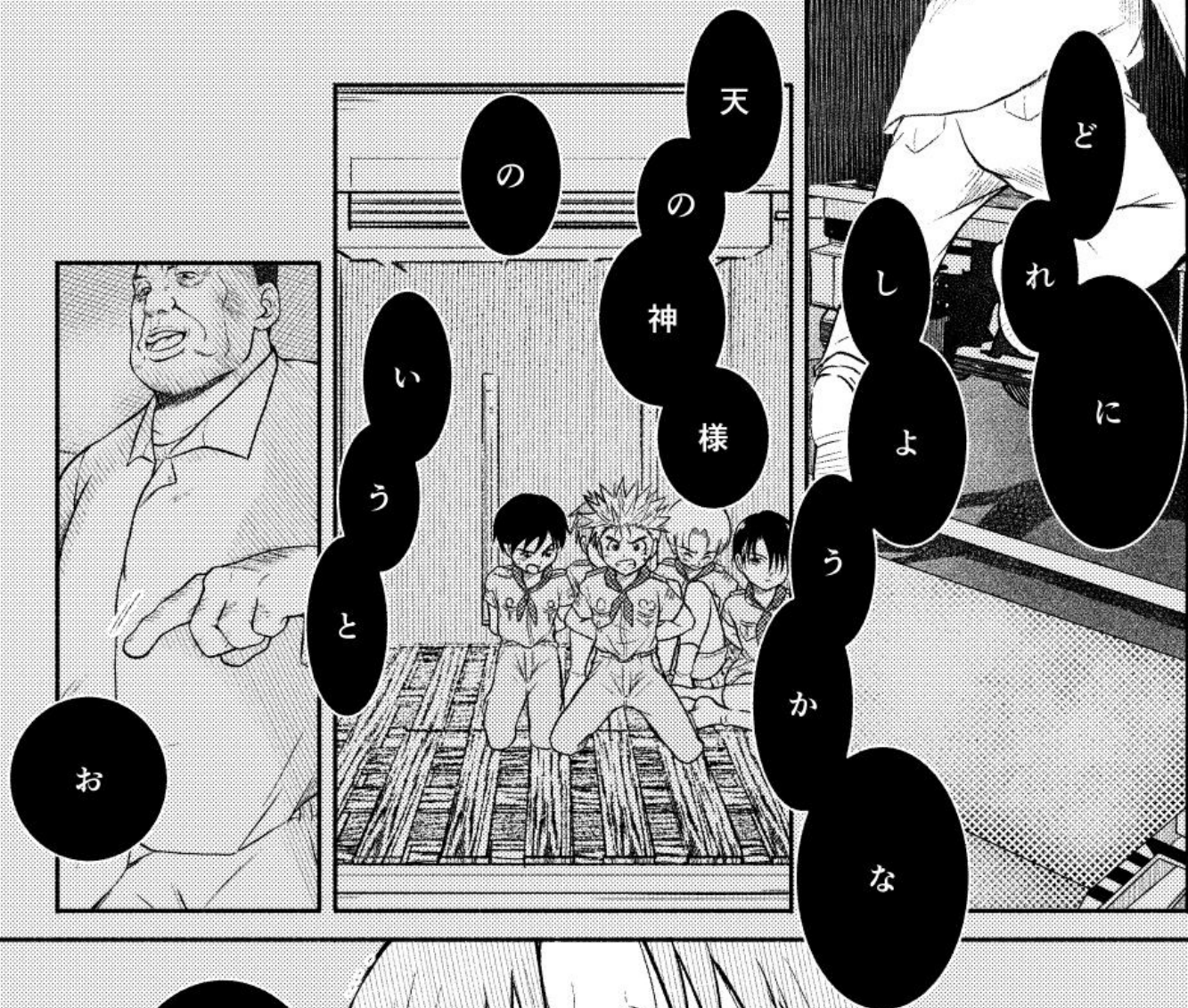
END



8月10日 PM17:20







それは ぼくが神様から見捨てられた瞬間



ボーイスカウト中

山中で遭難

# 少年五人 行方不明

## 遭難？現代の神隠しか

鳥木市キャンプ場に出かけたボーイ  
キャンプ団のうち、5名の消息が分か  
らなくなり1週間になる。警察署の捜  
索は難航しており、依然有力な手がか  
りはない。引率していた男性(31)も行  
方も分からず、何らかの事情を知り  
いるものとして捜索中

さえも分か  
お願いだか  
心が張り裂  
ている。」と

## かみさまのいうとおり

画・猫背かつとし 話・とりきくーや



さて 準備できた  
アナルフックは  
尻になじんだか？





ケツの調子はどうだ？  
昨日は手首まで  
入れてもらえて  
嬉しかったろ

どうした  
気持ちよくしてもらって  
お礼も言えないのか

ワ…わん

ワンツッ！

ワ…ッ



違うだろ！  
赤い首輪の時は  
お前は豚だって  
教えただろうがっ！

覚えが悪いな！  
このまま金玉  
潰されて死ぬかッ



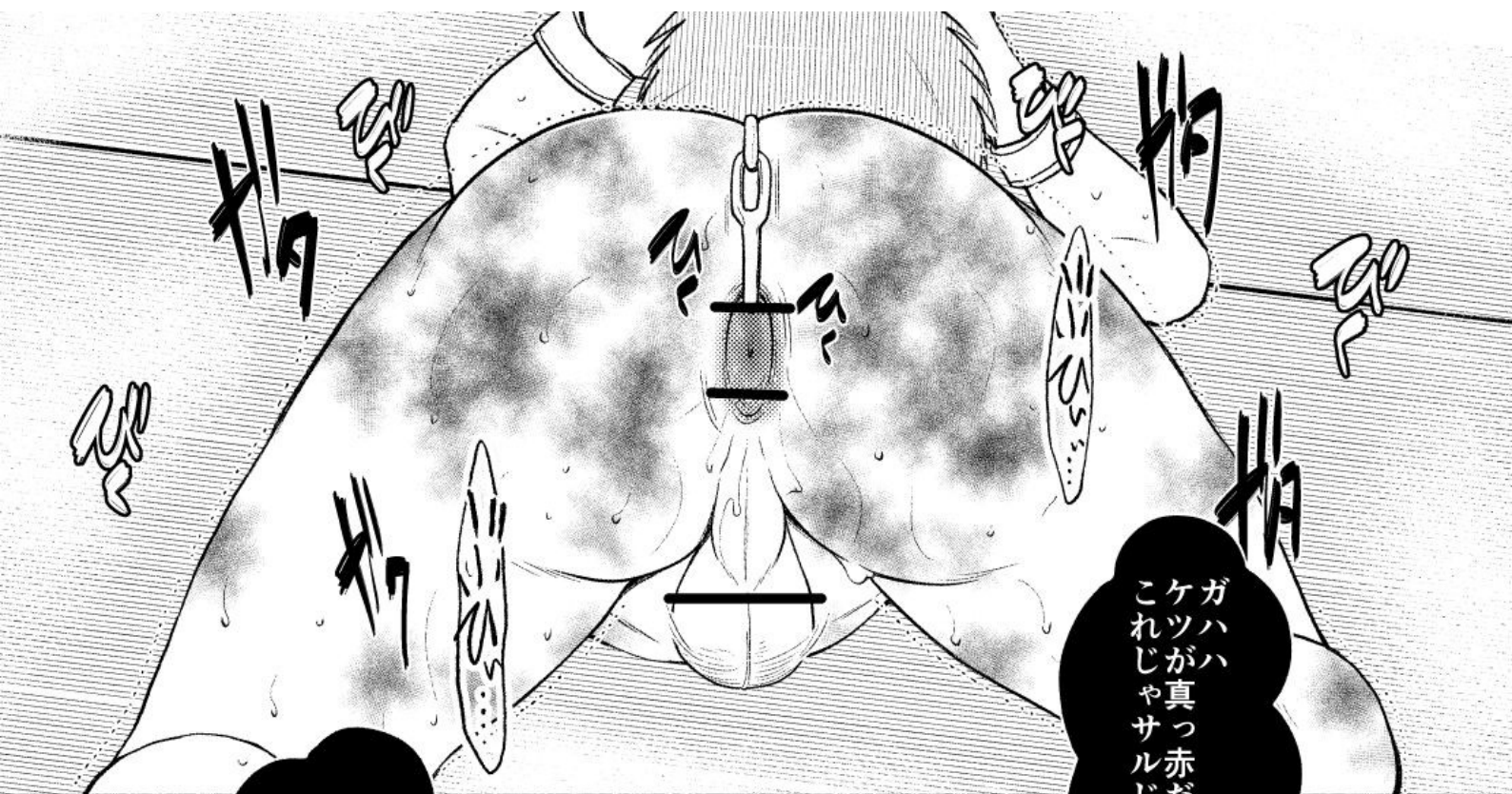
ブヒッ！  
ブヒッ！

許し…  
ブウウ！  
ブウウウ！



ギヤアアアアアアアッ





ガハハ  
ケツが真っ赤だぞ  
これじゃサルじゃないか

そうだ  
今日は新しく  
サルの芸を覚えさせよう



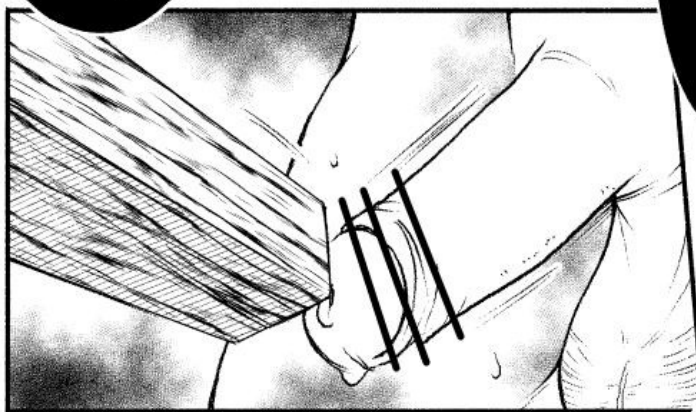
ほらやってみろ  
サルの言葉で  
ご主人様ありがとうって  
気持ちを入れて



黒い首輪の時は  
お前はサルだ  
スケベ大好き  
変態おさる



そうそう  
お前の言葉は人間様には  
分らないんだから  
笑顔と勃起をきちんと  
見せろよ



んー?  
全然伝わらないな  
調教が足りないか?

ウキッ!  
ウキッ! ウキッ! ウキッ! ウキッ!





誘拐されたのは五人  
だけだこの男の家畜に  
選ばれたのは  
ぼくだけだった

「天の神様のいうとおり」  
くだらない指遊びで  
ぼくは地獄に落とされた

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

どうして他の  
四人じゃなかつたの？  
教えてよ神様





赤ならブタ  
黒ならサル  
白ならイヌにならないと

今日の首輪…  
これ…なに  
黄色いスカーフ  
こんなの知らない



なんでキャンプ団の  
スカーフを……  
どうしていいか分からなくて  
その日ぼくは  
一言も喋らなかった

今日は人間に  
戻ってもいいぞ  
喋りたいことも  
沢山あるだろうしな

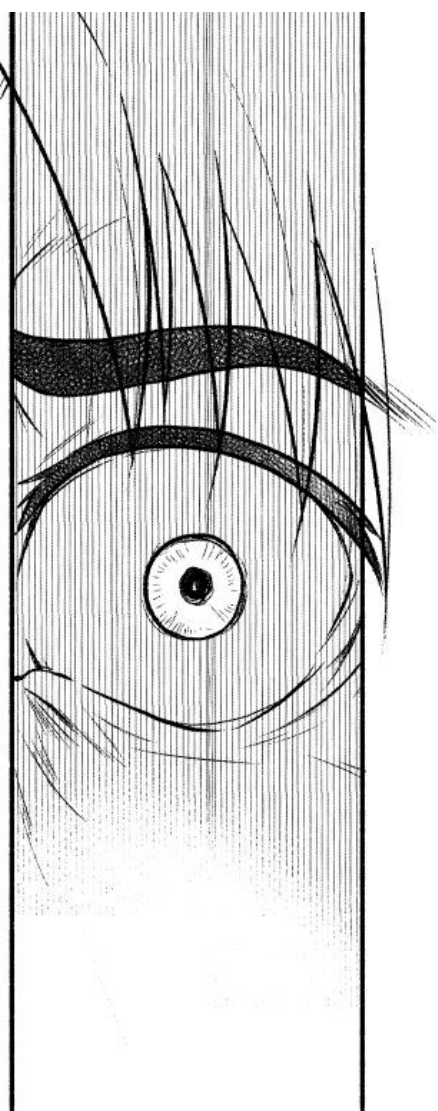
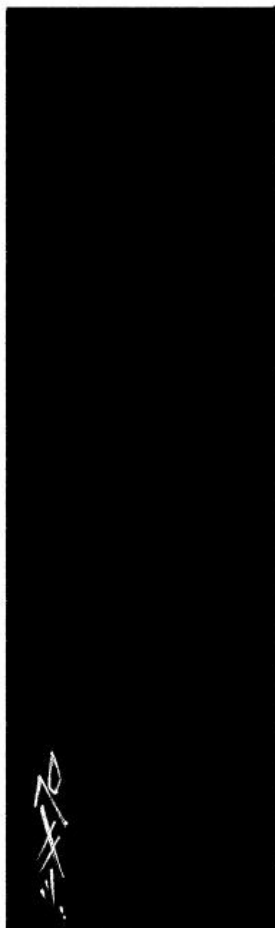
無言のまま  
言われる前にお尻を出して  
セックスの姿勢に  
混乱したままのぼくに  
男はいった

お前の友達が  
遊びにきているんだ





おはよう！  
さて今日は  
どうやって遊びたい？





ぼくは  
勘違いしていた

神様はぼくを  
助けてくれた  
ぼくを選んで下さった

いや違う  
神様に選んで  
もらったんじゃない！

この人が  
ぼくの  
神様なんだ



ありがとうございます...  
ぼく...これから  
ブタでもイヌでも  
何にだってなります...

だから...  
他の人にぼくを  
あげたりしないでください

全部  
神様の  
言うとおりにするから...



2016. 05

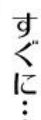
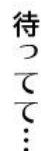
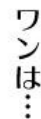
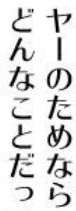
少年キャンプ団  
記念撮影



ぜんぶ かみさまのいうとおり

## 番外編 ケンタその後

本編最新刊はBIGGYMにて、デジコミはBIGGYMのマーケットにて好評配信中です!



ときさん ありがとう!!



甘露なる

ちよこれゐと  
血汚齡糖と引き換へに

矜持捨て去る  
敗戦の夏



母の手の温もりを  
感じ乍ら…  
1950年 小倉祇園太鼓の夜







ここ、鳥鬼町は  
とっても平和で良い町！  
特に廃工場跡の空き地は  
オレたちの最高の遊び場だった。  
女子のダンスチームも  
練習でよく使っていた。

だけど、ある日  
不審者が住み着いてしまい  
とうとう帰りの会の約束ごとで  
空き地で遊ぶことが  
禁止されてしまったんだ！

このままじゃ  
オレたちの天国が  
奪われてしまう！

# 五年少年探偵団！ 元気組

※結成から五年目の意です。

どうしよう  
コンテスト  
もうすぐなのに

このままじゃ  
練習できなくて  
失敗するわ

心配しないで  
ここあちゃん！  
不審者なんか  
おれたちが  
やつつけてやる！

？  
あなた達は！

クラスのアイドル 心桜(ここあ)ちゃん

少年探偵団の  
みんな！

クラスのお悩みは  
オレたちが  
ズバツと解決！

きせき君(11)

ゆうき君(10)

げんき君(11)

※カッコ内の数字はIQ数値です。



死ねクソガキ！  
チンポハメたまま  
死んじまえ！

ぐっ  
ほっ

ぐっ  
ほっ

ぐっ  
ほっ

うへ…  
あはは…





五年少年探偵団！  
元気組☆ おわり



# 五年少年探偵団！ 元気組

じんぶつしょうかい

## 人物紹介

あかい

### ●赤井げんき(11)

たんていだん げんきしょうねん  
探偵団リーダーの元気少年！

ちょうしもの べんきょう  
お調子者で勉強はからっきしだけど

いざというときの勇気と根性で

何度も探偵団のピンチを乗り越えてきた！

ただ今反日カルト集団に捕まって

廃人化拷問レイプを受けたおかげで

某国でテロリスト専用少年便器として

第二の人生を送っているゾ！

食糞だってへっちゃらだい☆

### ●黄田ゆうき(10)

げんきの幼なじみの秀才少年！

とは言っても田舎の公立での話なので  
実際は並の上程度の学力。

ちょっとナルシストなところもあるみたい。

愛読書は「名探偵○○○」

そんな秀才だけどアナル奴隷としては

まだまだ半人前。最近ジャブをキメられて

犯されることが増えてきた。

内臓が保つのかちょっと心配だね。

### ●青山きせき(11)

もともととはクラスのいじめっこだったけど

げんきとのバトルを通じて友達になり

今では探偵団の頼れる仲間！

キラキラネームからお察しの通り

母親の彼氏から虐待を受けているけど

クラスでは明るく振る舞ってるゾ。

家畜豚生活も持ち前の明るさで

頑張ってるゾ！

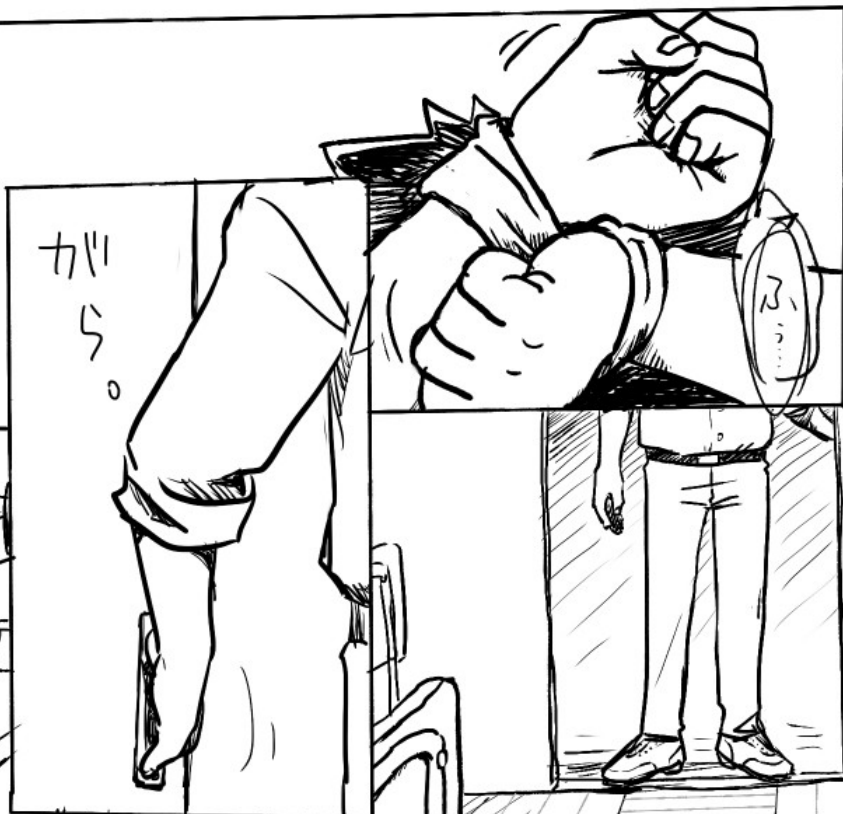
(カッコ内の数字は1回の射精での平均精子排出量(単位ml)です。)

※生徒は1枚も脱ぎません。ご注意ください。

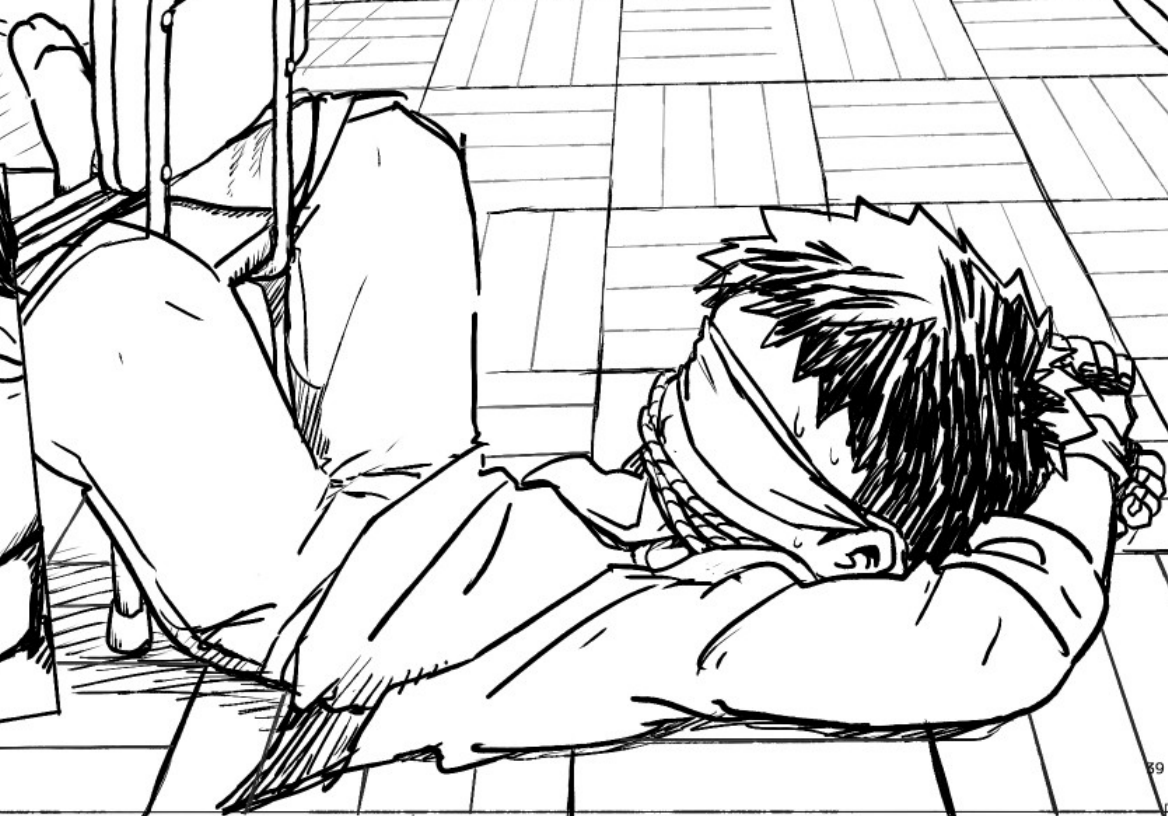
# S先生 asaki と 生徒M amiya



描いた人↓音♪



から。







あー  
思ったより  
息苦しかったー

はっ  
はっ



...ん？  
はたはた  
だれか



ぴしゃ

がら



おす

す

俺以外の  
人が来た  
らどうす  
るつもり  
だったん  
だ！

ええ？

竹田さんにやられ  
たつて言うつもり  
だった

十中八九  
嘘だつて  
バレるだろう



竹田はクラスでも  
随一のいじめ  
られっ子で  
仕返しも一切  
したことがない



そんな竹田がこんな  
ことをやったかと  
聞かれたら  
クラス全員がノーと  
答えるだろう



しかしムードメーカー  
で、皆が嫌がる当番も  
何でもこなす間宮が  
やったと言ったら



そういえばさ  
せんせー

オレ昨日映画  
見てただけど

いじめられてる  
奴が目の前でしやせー  
しろつてオナニー見ら  
れてんの

皆がイエスと  
答えるだろう

よく思い  
つくよな

あんな状態で  
しやせー出来る  
ワケないよな

いやお前  
なら出来る



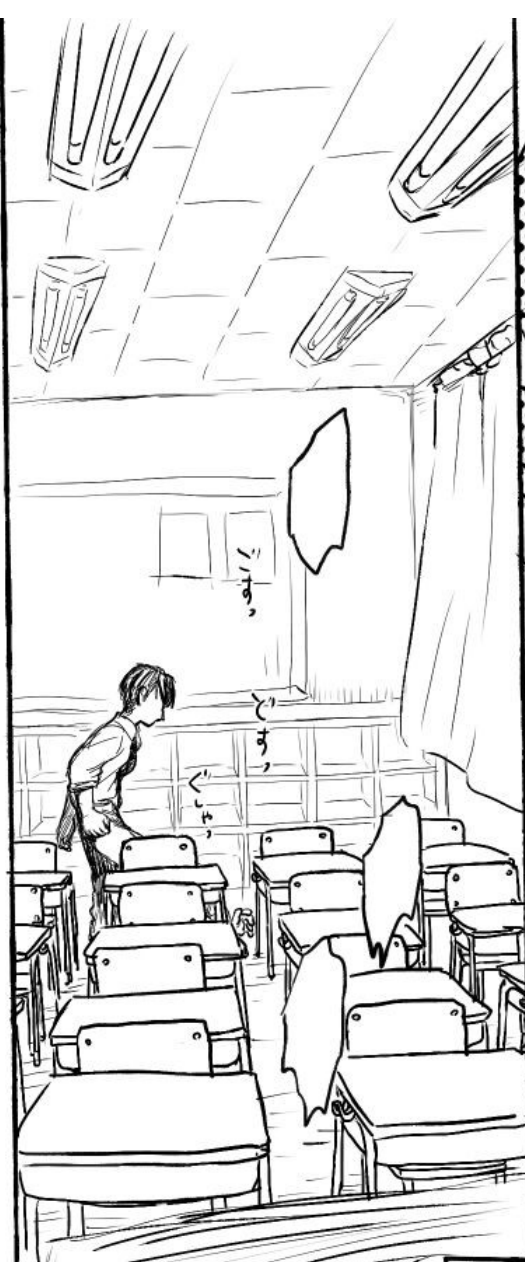
いいなあ  
やられて  
みてー











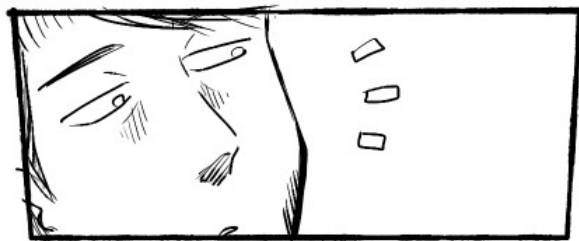












数日前まではお日様の匂いがしていたA君。  
最初はすごく痛がっていたお尻の穴もすっかり緩んできた。

「お待ちせA君  
今日はお友達も連れてきたよ。」

目隠しで連れてきた  
大好きな『お友達』に気付いたね。  
さあ、今日はどんな風に遊ぼうか？





南ティブソン県  
途上国ながら  
訪問客の多いこの場所は  
政府からも放置された  
無法の都市

この街で買えるのは  
「人間」

なんらかの事情で  
国籍・戸籍を失った  
人として認められていない  
奴隷たちだ

通りには  
裸同然の少年少女が  
調教された笑顔を浮かべ  
自らの体を売り物として  
差し出してくる

私はそれには目もくれず  
奥の崩れかかった  
小屋を訪れる  
男に金を払うと  
促されたその先に  
噂で聞いた二人が居た

非実在少年  
とりきぐーや



宿の主人にチップを払い  
誰も近づけるなと念を押す  
ようやく  
誰にも邪魔されない場所で  
二人を抱こうと思った  
そのときだ

「貴方はC国人？K国？  
それとも……」  
不慣れな現地の言葉で  
兄のセイジが私に  
質問してきたのだ

止める手を無視し  
上の兄は  
私の服を脱がせる

弟は昨日酷い客に  
買われて調子悪いから  
おねがいに  
俺だけに

俺 なんでも出来る  
クスリも鞭も  
おしっこ飲むのも平気  
だからお願い

何も知らない少年だったはず  
そんな彼がためらいもなく  
チンポを咥えてはじめた  
その衝撃に私は震え  
彼の舌技にしばし溺れる

やがて  
二人は、言われても居ないのに  
身にまといつていた布を外すと  
商品である自分の体を  
みせつけてきた。

勃起しているのは何か  
飲まされているのか  
まさか…自然に興奮しているのか。  
兄はともかく、弟のペニスも  
それなりに発育しているのに驚く。  
年不相応の、射精を知っている  
ペニスの蠢きだ。



二人はそのまま  
背を、尻を向ける。  
その中心のくぼみは  
過酷な生活の証のように  
醜く変形していた。

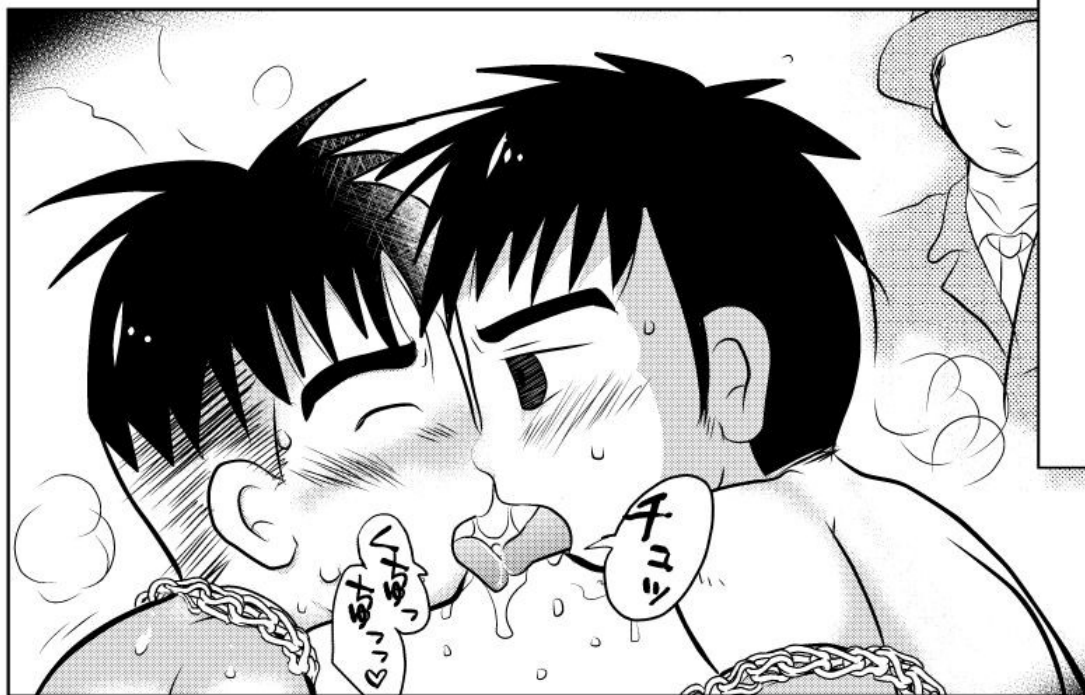
双丘の陰から  
こぼれ見えた辜丸には、  
最初はペイントに見えたが  
よくみれば焼き印とわかる  
知らないマーク。

この国の宗教において  
罪深きものを示す印だという。  
幼くして姦淫にふけるもの。  
同性で姦淫にふけるもの。  
そして近親で姦淫にふけるもの。  
この国の宗教での禁忌行為。

本人の意志に関係なく  
この印は彼らが禁忌を犯した  
罪人であることを意味する。  
「哀れな最低奴隷兄弟に  
ご主人様の便所としての  
価値をお与え下さい。」  
弟が子どものソプラノで  
必死で覚えたであろう現地語を  
尻を上げながら紡ぐ。

そんな彼らを救う手は  
この国にはない。  
理不尽にも無理やり  
異国につれてこられた彼らは  
何の罪もないのに  
そんな生き物にされたのだ。

何も言えず佇む私。  
すると、濃厚なくちづけを  
二人は目の前で始めた。



大人の暴力よりは  
まだ二人で犯りあったほうが  
いいという防衛策なのか  
命令もしていないのに  
禁忌のフアックを始める二人







啄むような愛撫を終えると  
弟の前に尻を差し出す兄。



この国で彼らは何度  
このようなことをしてきたのか。  
異常な交合いの始まりに  
戸惑うのは私ばかり。  
彼らは、遺伝子で決まっている  
獣の交尾のように、ごく自然に。



性器と  
本来性器に  
なり得ない穴で  
つながる。

兄弟として生まれた二人が  
躊躇いを見せず性交にふける  
人間とはここまで  
醜惡になれるものなのか

生まれて初めて聞く  
少年が犯される声  
若い肉同士がぶつかる音より  
高い声が部屋中に響く

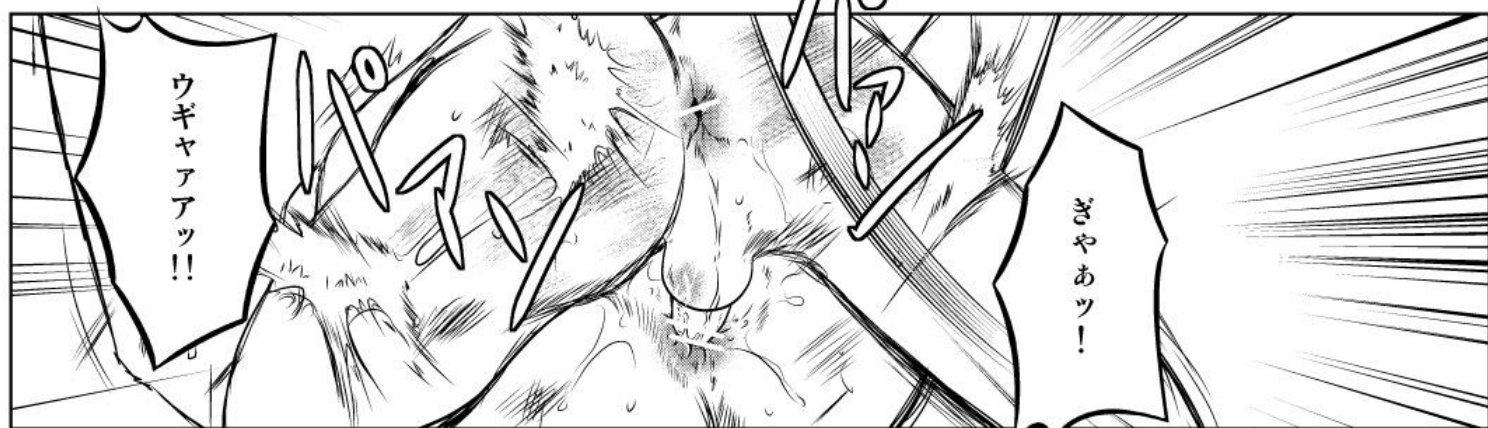
その淫らな音に  
弟の絶頂の呻きが  
重なった





その眼前の「異常」が  
私の中にあつた何かを  
グチャリと潰した

教育の賜物だろう。  
「観客」である私の前で  
中出しされたアナルを  
一番良い角度でみせつける。





こんなことをしに  
この国に来たわけでは  
なかった

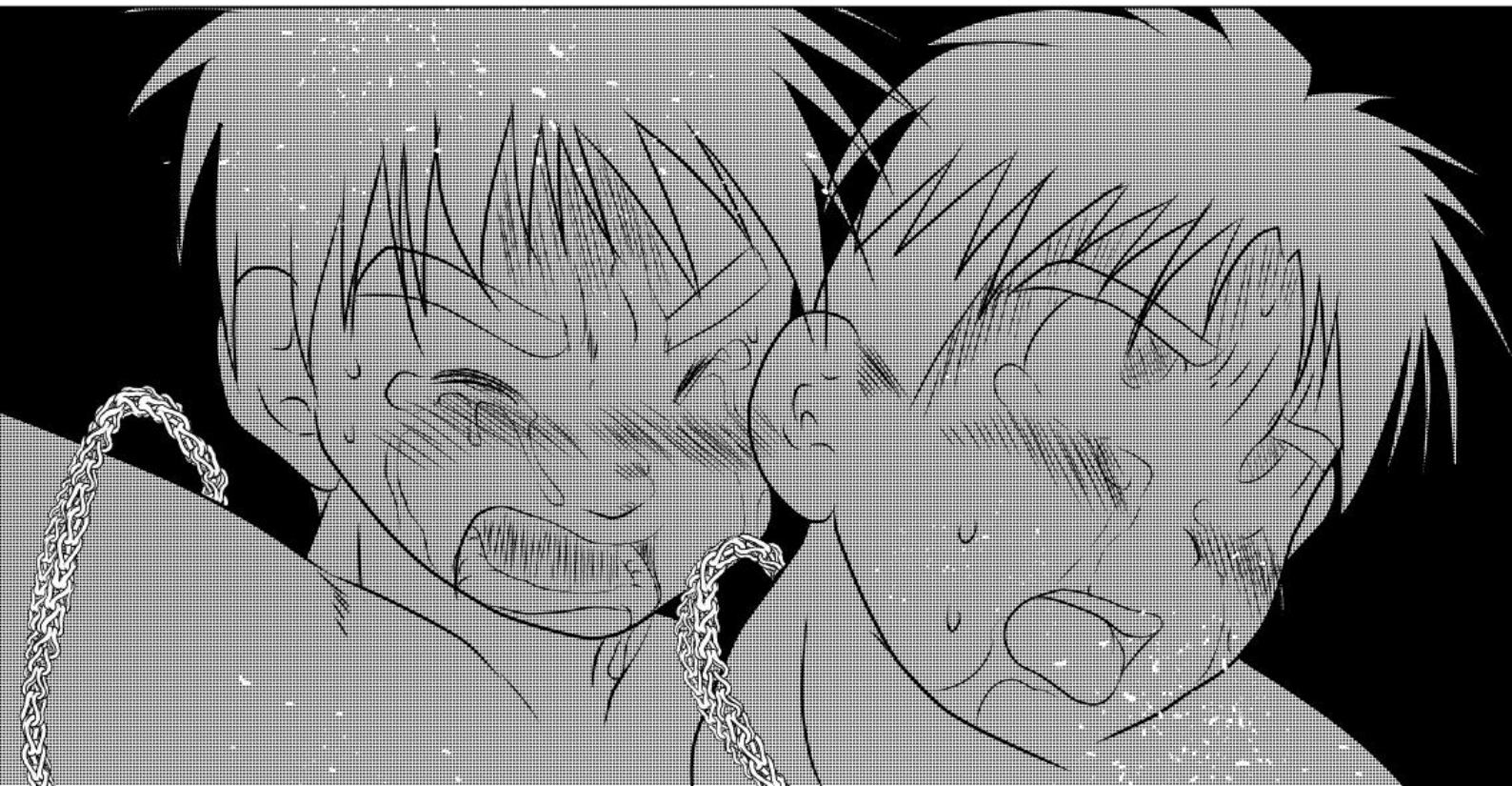
二人を買ったらどう可愛がろうか  
何度も脳内で描かれた妄想は  
もうひとつも残っていない。  
この汚い兄弟をどう罰するか  
目の前の淫らしい生き物を。

一種の使命感のような  
衝動で  
私は生まれて初めて  
暴力を振るった



殴打の苦しみで  
小便を漏らし嘔吐する  
それでも勃起する彼らの  
ペニスの存在は  
私に嫌悪感と  
それ以上の安心感を与える。

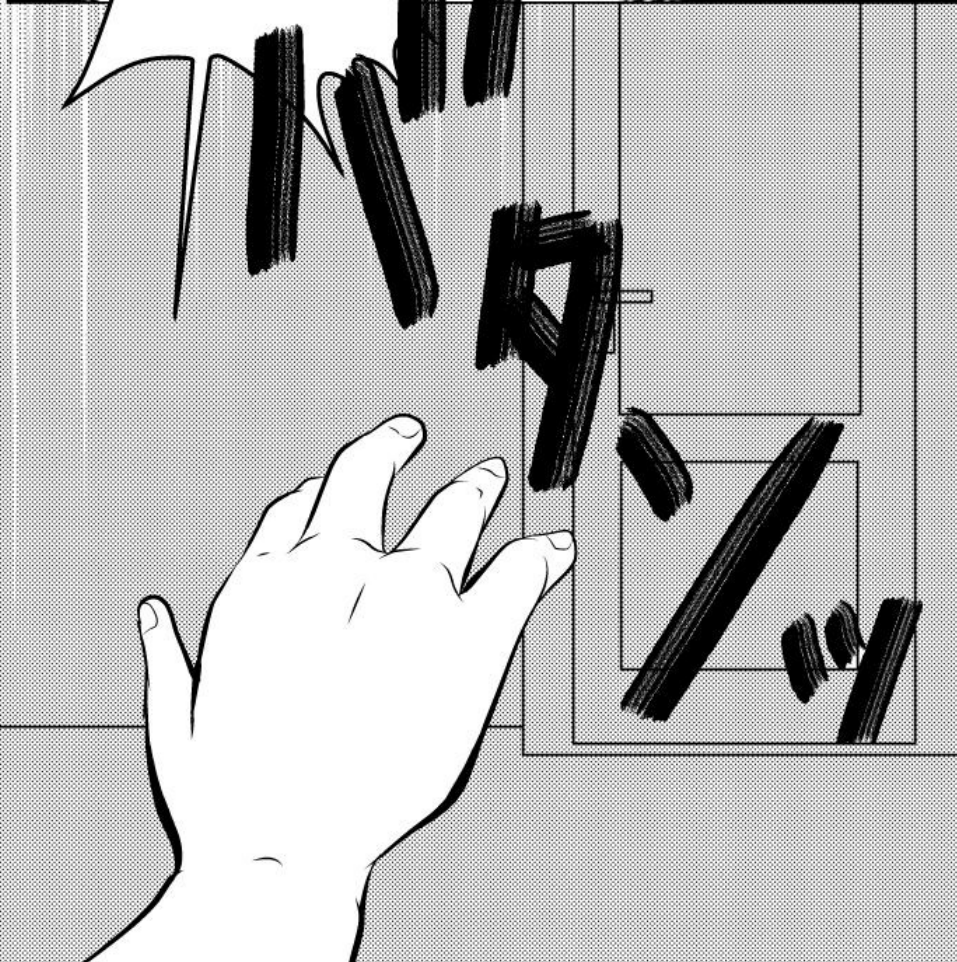
これは人間ではない  
私が罰してやらないで  
理性とか罪悪感とか  
そんなブレイキとなり得る感情は  
震えながらも腰振りを止めない  
二人の姿の前に消えた。











ショウ……ッ  
しかりレツ  
ショウ……ッ



奴隷娼婦の寿命は短い

きつと彼らはこの国で  
まともな死に方は  
選べないだろう

けれどもう  
すべてどうでもよかった  
やっとみつけた  
あの子らは  
まともに生きる道も  
選べない体になっていて



誓司…

章…司…ツ

はあッ

あ  
あ  
?

私の顔すら  
忘れてしまった  
二人はもう



本日未明  
\* \* 市の踏切で  
男性が電車に撥ねられ  
死亡しました

男性は自ら  
線路内に侵入し自殺した  
可能性が高いと見て調べています  
この男性は先日まで  
\* \* 国に滞在し  
帰国直後の死亡となり  
警察では：

END











illustration BY無名







# 伯父の飼う豚

■挿絵 権まこと  
■小説 とりきくーや





「様態は芳しくありません。」

医師の言葉は予想していたとは言え、ショックなことには変わりがなかった。重苦しい空気が漂う医務室で、母の担当医師である男は言葉を続けた。

「お母様の病気は精神疾患と思われます。投薬で眠らせることが、現在出来る最善の対応で……意識が戻ると、我々の言葉は届きません。自傷行為を続け、放置しておけば自害しかねない深刻な状況です。」

それも知っている。暴れる母を初めて見たのは、自分の誕生日の日のことだった。その日は、三年生は高校受験前最後のテストの時期の日曜日ということで、部活も学校も休みのんびりした休日になるはずだったのに。ガラス棚が割れる音に驚き、自室から慌てて台所に駆け込むと、砕けたガラスで、自らの下腹部を切りつけている母がいた。

「どうして……母さんはこんなことに……。」

苦勞している人だということは知っていた。事情は知らないが、父は居ない。親戚もいない。若い母一人、自分をここまで育てるのは、並大抵の苦勞ではないことは流石に幼い自分にも理解が出来た。だけど、ここまで追い詰めるほどだったのか。それなら何故自分は気がつくことができなかったのか……悔恨、俺の歯を食いしばる音が部屋に落ちた。

「康太君……あまり、気に病まないように。とにかく療養を続け、回復を待ちましょう。」

「お願いします！ 俺、何でもします！ バイト出来る年になったら、もつとお金も用意できますから！ 母さんを助けてください……！」

「子供の君がそんなこと気にしなくていい……今は、伯父さんのところに？ 大丈夫かい。その……きちんと、住まわせてもらえるのかい？」

伯父。その言葉に俺の体は一瞬大きく震えたが、医師は気づかなかったようだ。

「はい……今は、伯父さんにお世話になってます。お金も全部伯父さんが……その……伯父さん、養豚場を経営していて……そこで手伝いを……。」

「ああ、それで……」

医師は途中で言葉を止めた。言いたいことはわかっている。俺の臭さだ。もう染み付いて取れない、手入れされていない犬のような独特の、エグみのある臭い。きつこの優しい医師は、俺が、虐待でもされてないか疑ったのだろう。だから、先回りしてその疑問を解消する。

疑われてはいけない。今、伯父が消えたら、母さんを助けるお金がもたえなくなる。だから……俺が、伯父さんから虐められていることは、疑われちゃいけないんだ。

「でも……大丈夫かい。とても疲れた様子に見える。」

医師というのはこの人に限らず観察眼に優れているものなのだろうか。これ以上長居をしたら、この生活が壊れるかもしれない。俺は作り笑いで答えると、そつと立ち上がる……お尻に、意識がむかないように、そつと。

「……母さんを、お願いします。」

俺の肛門に刺さっているディルドが目立たないように気をつけながら、最後に一礼して病院を後にした。

### 【伯父の飼う豚】

母さんに家族や親戚は一人も居ないと聞いていた。見たことのない父の居場所も知らない。だから、母さんが隔離された病室の廊下、これからどうすればいいのかわからず震えていた俺に、そいつが声をかけてきた時には、最初は天の恵みだと疑わなかった。

どこから聞いたかわからないが、母の突然の発病を聞き駆けつけてくれた、母の兄。初めて会う、俺の伯父さん。最初、伯父さんは自己紹介をすると、とても優しい顔で氣遣ってくれた。

「君が康太君かい。なるほど、歌子……君のお母さんにとても良く似ている。大変だったろう。ぼくの家に来るといい。心配しなくていい、君一人養うぐらいの蓄えはある。少し田舎の方になるから不便かもしれないけど、この病院から車で一時間ぐらいだ。お母さんが回復するまで、ぼくの家で暮らすといい。」

そんなことを言ってくれていた気がする。涙が出るほど嬉しかったし、何度も感謝の言葉を捧げた。一時間後、その家の玄関で、こいつに犯されるということも知らずに。伯父は変態だった。俺だって、母さんに隠れてこっそりエロサイトとか見たことはあるけど、そのどれにも出てこない、頭のおかしい変態。車の中で飲ませられた薬で抵抗出来なかった俺は、伯父にその日に犯された。そして言われたんだ。これがお前の役目だと。これが出来ないなら、出て行け。母親も見殺しにするしかないな。わかったら今度は自分からチンポの上に座れ。ありがとうございませと、喜びながらケツの穴を俺に捧げろと。

あれから、もう二ヶ月になる。初めて、母の見舞いを許された今日まで、一度も俺は服を着ることすら許されていなかった。そして、病院を出た瞬間からも、許されるわけがない。

駐車場で待つ伯父のトラックのドアの前、俺は、周りに人が居ないタイミングで、借りていた服を全て脱いだ。運転席横の窓が開く。

「その格好、母親には見せてやったのか？ ヒツヒツヒ。」

伯父は何が可笑しいのか、自分の言葉に自分で喜ぶ。こっちは、殺してやりたいぐらいの気持ちなのに。

伯父の許しを得て、俺はトラックの荷台に乗り込んだ。そうして、予め用意してある、鎖つきの首輪を自分の首に通す。出荷される家畜のように、裸に首輪だけの格好で、運ばれる先は伯父の家。頑丈な乗り物でないと入り込めない荒れ道の先は、男一人で暮らすには少し大きい軒家と、併設して小さな養豚場。この養豚場では豚が二十・三十ほど飼育されている。伯父の本業ではなく、趣味のようなものだ。それも、とびつきの悪趣味。

トラックから降ろされ、俺はこの養豚場に運ばれる。中は豚のためのヒーターが焚かれていて、そのせいで余計に臭いが拡散しているように思う。伯父は、命令した。

「尻尾を抜け。」

尻尾…… そう呼ばれた尻のデイルドを、俺は命令通り目の前で引き抜いてみせた。

「ふ…… うううう…… ツー！」

ドリルのような形をしている俺の尻尾。やむを得ない事情で服を着なくてはいけないとき、代わりに、俺はこれを身につけることを命令されている。そして、これを引き抜くと。

ブビッ……… ブブウブビュブウ……… つ！

肛門が泡をたててガスを吐き出す。自分の尻が出す下品な音に、泣き出したくなる気持ちになった。

「相変わらず汚ねえガキだな！ このどんな豚だつて、お前みたいな下品な鳴き声を出す奴はいないぞ！」

床に転がったデイルドを拾い上げて、わざと顔しかめてその臭いを嗅ぎながら、伯父は俺を罵った。

「なにをボサツとしてる！ さつさと、御豚様の寢床を片付けろ！ それが終わるまでお前のエサは抜きだ！」

伯父の家で飼われてから、俺の昼は「御豚様」のご奉仕をするだけになった。売り物にもならないお前は豚以下だ、お前の仕事は、お前より偉い御豚様を気持ちよくさせることだと、俺の全ての荷物は目の前で燃やされてしまった。豚以下のお前に、ギムキョーイクなんてもったいないだろうと。学校の制服も、小学生から続けていた柔道の帯も。昼間は養豚場の中で一人、裸のまま働く。汚れた床や牧草の清掃を行い、豚のエサやりまで終わったらまずは一仕事終わり。今度は伯父が、俺のエサを用意してくれる。餌皿に入った伯父の残飯を、俺は御豚様の隣で四つん這いになりながら咀嚼。もちろん、トイレも一緒だ。お前なんかには勿体無いと言われながら、家畜と並んでクソをする。トイレットペーパーなんて、この家に来てから一度も使ったことがない。エサのあとは、豚一匹一匹を丹念にマッサージ。おいしくなるように、硬い豚の背を一頭一頭揉み上げる。全部終わる頃にはクタクタだ。

最初はメシも食えないぐらいに吐きそうだったこの臭いも三日もすれば慣れてしまったし、一週間ぐらいで自分の体も同じ臭いになった。

こんなのは、なんてこと無い。もちろん、この臭いを好きになんてなれなかったし、苦しい。でも、働かないといけないのは理解していたし、多少異常な環境だとしても、ただ働くだけなら俺は我慢できる。辛いのは夜だ。夜になったら…… 今度は、俺が豚になる。

夜はそのまま伯父に忘れられる日もあるけど、ほとんど

は、養豚場ではない、家のほうに呼ばれる。その時は豚の汚れを運ばないよう、天気・気温にかかわらず外の井戸で体を洗う。ある程度の汚れが落ちたら、今度は伯父のために俺は…… この体を捧げる。

伯父のすることはとにかく異常だった。豚と同じように、マッサージをさせるぐらいなら分かる。だけど、これが何の得になるのかという、意味の分からないことをさせることも多い。例えば、食事の時、俺はテーブルになる。伯父の前に四つん這いになり、その背中に置かれる熱い皿・汁椀。尻の穴は箸置き。一つでも落としたり、残飯すらもらえなくなる。便所の時、伯父のチンポを口で支えるように命令される。便器にきちんとして小便が飛ぶように、毛だらけの汚いチンポの幹を咥えて、動かす。目の前ゼロ距離で放たれる、汚水。豚の臭いになれた鼻にさえ、伯父の生み出すアンモニア尿臭は強烈だった。このときは零さないようにするのはもちろん、勃起させないようにも気をつけないといけない。勃たせてしまったら、折檻が待っている。

何より一番わからないのは、俺の尻にチンポを入れること。それがしたいなら、女を呼べばいいじゃないか！ セックスのことは知ってる。オナニーだって…… 早かったから、三年ぐらい前、四年生の時ぐらいにはしてた。だから、射精が気持ちいいことも、したことはないけど…… 多分、セックスが気持ちいいことなのも分かっている。でも、どうしてそれが俺なんだ。この男は、俺のことが好きなのか、嫌いなのか、理解できないまま俺は、今日も男が吐き出すツバと精液を、飲み下す。

俺が理解出来ない、あり得ないことをするときほど、この男は愉悅に浸った、蕩けるような表情を見せる。異常な変態者…… だけど、母さんの命の恩人。この男を喜ばせない……





ひとしきり体をオモチャにした後、ほとんど意識の飛んだ俺を、伯父はまた豚小屋に戻す。

豚が歩きまわる中央の柱に、縛り付けられる。脚は大きく開かされて、肛門も大きく広げられる。穴の中まで見えるように、道具で固定。目隠しで視界を奪われて、鼻の穴にもフックが引つ掛けられて、豚が一匹増えた。伯父は嗤う。清掃したばかりなのに、豚はまた構わず糞を垂れ流すから、フックで広げられた鼻孔の奥にまで、その汚臭が侵入する。

最後に慰めとばかりに、伯父の指が俺のチンチンを六・七回、ゆつくりとしごく。こんな場所なのに、しつかり固くなるのを確認すると、その指は最後に金玉をバチンと大きく弾いた。苦しくて痛いけど、やつと今日のお勤めが終わった合図。

暗闇の中、ブヒブヒと獣が蠢く音だけが耳に届く。時々、悪戯な子豚が、一体この生き物はなんだろうとしばかりに、俺の尻に鼻の先を近づける。そんな感触にさえ、いちゃいちゃバカになった尻の穴は感じてしまい、全身に電流が流れる。流れる刺激の終着点はチンポの先端。見えなくても、じわりと露が押し出されるのが分かる。

「う…… ウゴオ…… ツ」

獣の声が一つ増える。それは俺だ。たしかに、もう俺は豚以下の生き物なのかもしれない。もつと尻をほじって欲しくて、たまらない気持ちの中、眠りにつく……。

頬の、熱い痛みと弾く音で目が覚めた。

しまった！ もうそんな時間なのか。慌てて俺は、見えない先にあったであろう、肉棒を咥えようと口を開くが、

もう一度飛んでくる張り手。

「康太ア！ ご主人様のチンポの臭いを感じたらすぐに咥えるんだよなあ？ なんだ、お前の鼻は、豚と俺の臭いの区別もつかねえのか！」

「ごめんなさいいっ！ ごめんなさいい！」

「うるせえ！」

嫌だ！ それは本当嫌だ！ だけど伯父に慈悲はない。今度は頬の張り手なんて比べ物にならないぐらいの、尖った痛みが、広げられたままの尻の穴に。

「アギアアアアアアア！」

豚の寝床に広げられていた固い牧草の一掴みが、一番敏感な粘膜に容赦なく押し付けられる。痛いっ！ いだいいだああ……ッ！

「咥えろ。」

それは許しの言葉。醜悪な命令のはずなのに、今の俺にとっては神の光に等しい言葉。喜ばせないと、もつと気持ちよくなってもらわないと、殺される……ッ

チンポ！ 今度こそ俺は目の前のチンポに食らいつく。唇に当たる暖かいものの、その中央の割れ目に舌の先を当てて動かす。冷静になったらいけない。この変態伯父は憎くて仕方ない、でもそんな男のチンポを咥えてるなんて考えたら死にたくなる。だから、もつとおかしくならなくちゃ。自分に暗示をかける。これは汚いことじゃない。母さんのためなんだから。チンポ、だからチンポいっばいしやぶって気持ちよくなって頂かないといけないんだ……ッ！

「チンポ奉仕が上手になったなあ。豚以下のお前にも、使いみちがあつてよかった。今度は御豚様のチンポも咥えてもらおうか。ああ、面白そうだ。お前も嬉しいだろ。想像してみろ……ハハハ、ほら、またチンポ固くしてるな。さすが、あの女のマンコから生まれただけあるな……。」

朝の仕置を受けた日は特に最悪だ。小さな傷をたくさん作った尻の穴は、絶え間なく俺を苛める。さすがに消毒はしてもらえただけ、その薬すら染みて痛い。だけど、当然仕事は休めない。

熱く、熱くひりつく尻の穴。御豚様のお掃除をさせて頂く。御豚様の隣で食事を頂く。御豚様と同じ便所で用を足して…… ずっと、お尻が熱い。その熱さは、あの男にチンポで抉られてる感触に少し似ていて……。

……。臭くて汚いだけのこの空間。いつしか、俺はこの臭いだけで勃起するようになっていくことに気がついた。こんな、おかしい。気持ち悪い。吐き気がする、だけど現実。掃除をしながら、水を流しながら、ずっと裸の股間に重い感触が……。

……。今は、伯父は見張っていない。周りを見る。大丈夫…… 今なら、泣いても……。怒られない。

そう思ったらもう止まらなかった。豚小屋の真ん中で、俺は泣いた。嘘から、止めようとしても止まらない熱いもの。母さんの名前を呼んだ。この世への恨み言を叫んだ。それでも涙は止まらず……。肛門の痛みも、勃起も、何も止まらず。何も変わらなかったんだ。

そう、何も変わらない。母さんがおかしくなつて一年が過ぎた。だけど、回復することはない。もう、こんな体だからお見舞いにも行けないけど。医師からの吉報が届くことはなかった。

変わるの俺ばかり。乳首も大きくなった。知らなくてよかったこともたくさん覚えた。豚の唾の味。豚の糞の味。



豚の、精液の味……。

「豚便所野郎康太、ご奉仕させて頂きます。」

この一年でおぼえた口上の後、伯父の体を舌で洗う。まずは、口。伯父の唾液で口を潤して、脇の下、足の裏、尻の隙間までしっかりと舐めとって、金玉袋もふやけるまで味わったら、最後にチンポ。

「いい家畜に育ったなあ、康太。」

伯父は俺の尻に蠟燭を垂らしながら、仕上がり具合に満足しているようだ。実際、母さんのお金を出し惜しみすることはなかった。それが一層、俺が逃げられない原因。この男は、母さんを守るといふ約束だけは守ってくれる……。

ふと、伯父は口を開く。

「一年頑張った褒美だ。おもしろい話を聞かせてやろうか。お前の母親のことだ。実はな、あいつとは、血の繋がっていない兄妹。あいつは養子だ。」

それは、薄々気がついていて。というより、そうであって欲しいと願っていた。この地球上最も下劣かもしれない男の血と、同じものを母が、俺が共有しているなんて信じられなかった。だからその告白は、この世界の何も解決させることはないけど、それでも僅かに俺を安堵させた。

…… 続く、絶望を聞くまでは。

「自慢じゃないが、俺はお前ぐらいのガキの頃から、豚が大好きでなあ。豚を育てるのも好きだったし、それ以上に、人間を豚にするのがたまらなく好きだった。たまらず同級生をヤッチまわって、続いてもみ消しに音を上げた、資産家の両親がガス抜きのために買った俺専用の豚が、お前の母親だ。毛も生えてないマンコ、気持ち良かったなあ。」

想像したのか、口の中のモノがさらに膨らんだ。このチンポが…… 母さんも、犯したっていうのかッ？



伯父は、腰を降りながら更に続けた。

「いいおもちやだったぜ。一番面白かったのは、豚の精液を腹いっぱいになるまでマンコに流して、糸と針で塞いだことだな。それでケツ掘ってやると、隙間から豚汁流しながら喜んでたっけな…… あんまり面白いから、一つ、悪戯をしてやった。」

「……ッ？」

「俺の精液も混ぜて置いた。」

口の中の熱いものと対照的に、俺の脳みそに冷たい雪が落ちた気がした。これは、予感だ。それも、とても悪い。

「妊娠したときはビククリしたぜ。俺の子か、それとも豚の子か…… ハハハ！ それだったら面白いな。だけど、あいつが産んだのは人間のガキだった。男だったのは残念だったけどな。思いついたんだよ。親子豚を飼うのも面白そうだなって。どうした顔色が悪いな？ まだこの話には続きがあるんだぞ。俺は母豚を逃がしてやった。あいつも勝手に、人の親になったことでようやく許されたなんて勘違いしてたみたいでな。バカな豚だ。美味しく育つまで待つてやっていただけだったのに…… ガキ豚が食べ頃になったタイミングで、俺は電話して言うてやったよ。」

……今度は親子で飼ってやるってな。気が狂うほど悦ぶのは流石に予想外だったな！ ヒツヒツヒツヒツヒツ！」

脳みそよりも体が先に理解した。今啜ってるペニスは、憎い伯父のチンポなんかじゃなかった。母さんを何度も犯したモノ。そして、俺の……ッ！ 胃の中のもの逆流する、だけどそれより一瞬先に、精液の味が口に広がった。喉を通りかけていた吐瀉物と一緒に、俺はそれを飲み込む。俺の……兄弟になる、精液を。

瞬間、口の中の醜態を、諸悪の権化に牙を立て、嘔みちぎる衝動に駆られる。だけどそれより早く、喉の奥に。

「ウゲホッッ！」

咽喉の突き当りまで亀頭をねじ込まれた。息苦しさはほんの瞬間で、その後訪れるのは、酩酊。家畜臭が染み付いた粘膜は、もう獣の膺より食欲だった。舌根より脳に近い場所が始まる交尾。揺さぶられるたびに、その感覚が肛門にリンクする。喉を犯されながら、俺は、体が悦んでいることをすでに自覚していた。

今すぐ殺してやりたい。母さんと、俺の人生を狂わせたコイツを。でも……出来なかった。こいつを殺したら、母さんはどうやって助けられる？ まだ働くこともできない俺には、母さんが救えない。

でも……もはやそんなのは、俺の最後の理性が作るただの言い訳。もう、殺せない。豚に主人は殺せない。

だって母さんだけじゃない。この人が死んでしまったら、もう、元に戻らない俺の体を、誰が…… 誰が……。

きつと、この先も俺はこの男のペニスを啜え続ける運命なのだろう。伯父…… 父も、それを確信したからこそ、この告白をしたのだ。たった一本のこのチンポに、もう、母も、俺も死ぬまで逆らえない……。

もはや飲み慣れた生種の味。残滓と唾液に塗れたこの肉棒が、次に犯す穴は決まってる。命令されるよりも早く、俺は向きを変えると……尻を高く捧げた。

せめて早く終わって欲しい。

一秒でも早く。そうじゃないと、本当に俺はダメになってしまう。お伽話の魔法使いは、王子を蛙に変えるらしいけど、俺に掛けられた魔法は、もう誰にもとけない。豚になった俺を、愛してくれる人なんでもういないから。この養豚場で最も最低な身分として、これから一生、この男に仕えるしかないんだ。

母さんが狂ってしまうほどの調教とは、一体どれほどのものだったのか想像できない。確かに分かっているのは、それがこれから、俺の未来に待っているということ。

ああ、もうどうしようもない。だって、そんな悪夢しか見えないっていうのに、体が震えてる。乳首・肛門・チンポ、触って欲しくて震えてる。今すぐ、尻の奥まで掘りあげてほしい。肛門の中のスイッチをガンガンに突いて、この悪夢を忘れられるように、いつそ心臓ごと貫いてほしくて仕方がないんだ。

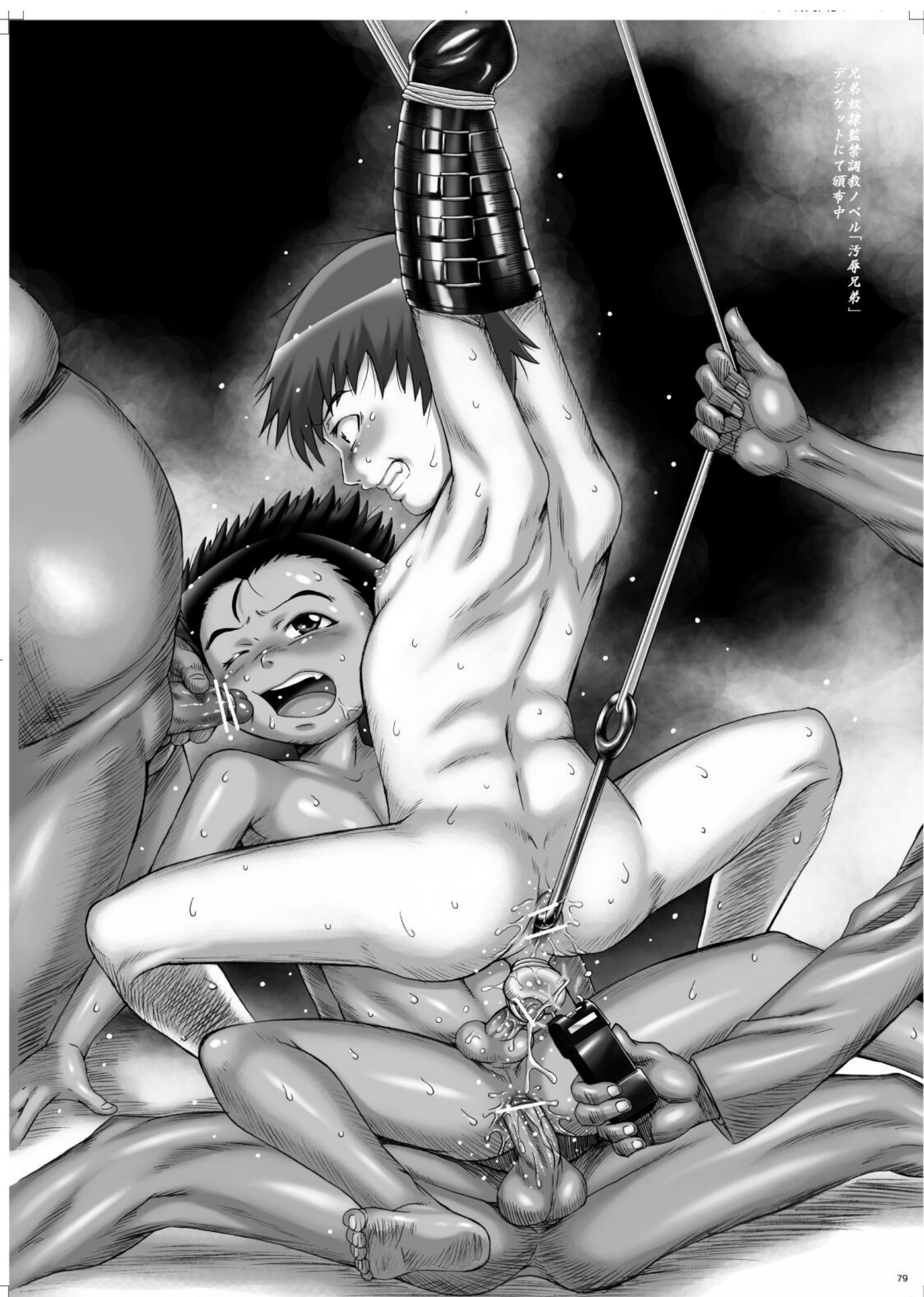
豚小屋で何度も見た。発情した豚の兆候。それに習うように、俺は実の父に、尾上げする。バシンと尻を叩かれる。あああ、やつとだ。早く、お願いします。早く……

最後に響いたのは、豚の鳴き声。

(終)



兄弟奴隷監禁調教ノベル「汚辱兄弟」  
デジケットにて頒布中



あとがき&  
ステキゲストさん目次コーナー

がんばって  
皆様のキャラを  
描いてみたけど  
ご覧の有様だよ！  
この本唯一の  
失敗コーナーです。

**PIZZABOY  
...P15**

**イスケ・グラタニティー  
...P09~14**

**高野有...P08**

**猫背かつとし...P 16~30**

**ちやぶ~  
...P 32~34**

**藤本郷...P31**





音...P03  
P39~48



井草春朗...P49

みつき尚...P50

照山紅葉  
...P67.79

とりきくーや...  
P 04~07・P35~38  
P 51~66・P80~90



無名...P68.69

Fairwind  
...P70.71

權まこと...P72~78

「男の子を性的興奮のために虐める本」  
とても日の当たる場所には置けない一冊ですが  
皆様のご支援のもと、無事発行出来る運びとなりました。  
ありがとうございます！

自分が同人誌を初めて作ったのは、今の半分の年齢のとき  
でした。その頃から振り返ってみると年々社会の目は厳しく  
なり、また本来日陰であったはずのオタク文化も一つの社会  
と化して、コミュニティが生まれて様々な性嗜好への理解が  
広がる反面、尖った主張は昔以上に、やりにくい時代になっ  
とも感じています。

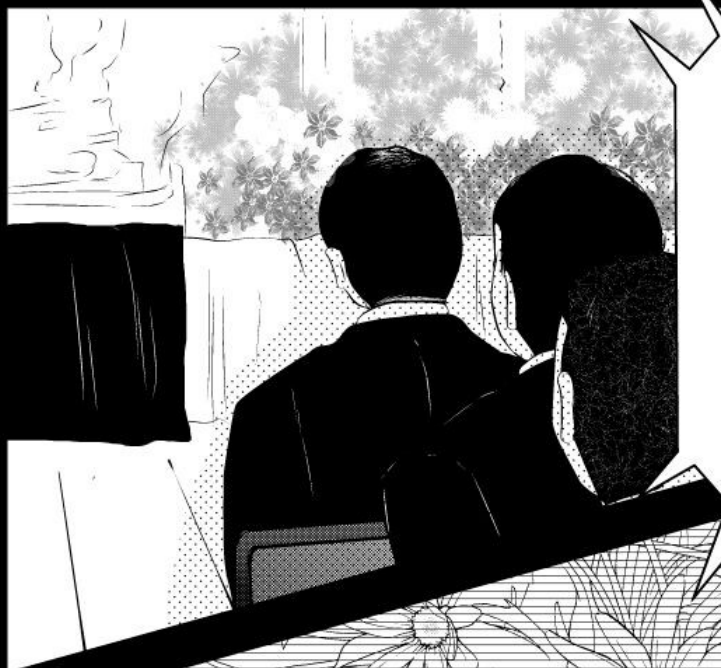
表に出せないだけで、実は同好の人にすら言えないエグい  
趣味を持っている人が自分の知らない場所でまだまだ居る  
かもしれないし、例えば10年先、30年先、自分の魂の双子  
のような嗜好の人が生まれるかもしれない。そのとき、手  
にとってもらい衝撃を受けてもらえるような本が作れたら  
いいなと思いましたが自分一人ではそんな力もあるわけな  
く柄にもなくゲスト募集なんてコトもしてみたり。

おかげさまで多くの方に協力頂いて感謝しています。  
五月五日という、かつてショタコンにとっては年に一度の  
宴だったこの日に、こんな本を出せて幸せです。皆様のお  
力を貸して頂き、ありがとうございました！

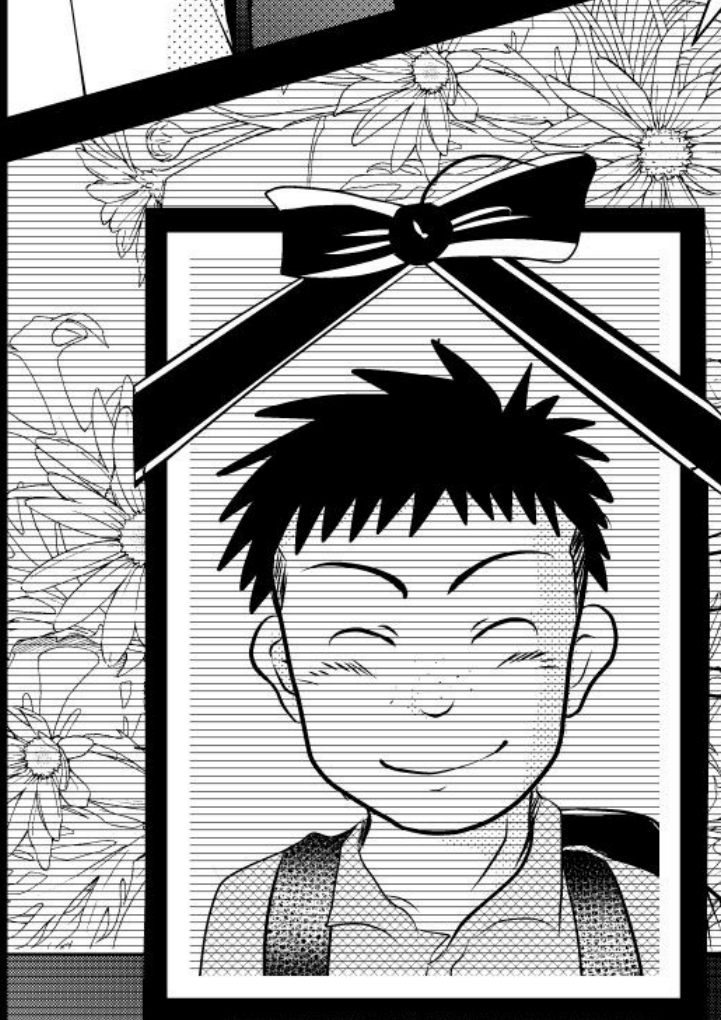
10年先、30年先、自分が死んだ後の世界とかでも。  
何かのきっかけでこの本を手にとった人が居たとして。  
その人が興奮か嫌悪かどんな気持ちを持つのかなとか  
そんなことを想像してたら結構楽しくって。

近況。最近少しだけ、絵を描くのが好きになりました。

2016.05.05 とりきくーや



本日は  
息子<sup>みづる</sup>充の  
葬儀にご会葬頂き  
誠にありがとうございますー



## 最期の挨拶

とりきくーや





息子は妻の  
連れ子ではありましたが  
義父の私を受け入れてくれ  
私も充を  
愛しておりました

決して賢い子では  
ありませんでしたが  
素直で優しく  
友達思いで...

もう少し  
がんばり  
ましょう



妻を不慮の事故で  
亡くした後も...  
充も辛かったはずなのに  
逆に私を励ますような  
とても健気な

自慢の息子でした

.....  
そんな  
あの子を.....

月永玄田充童子





初めて犯したことは  
二年前のことです







素直な息子は  
すぐに自分の運命を  
受け入れてくれました

卒業を迎える頃には  
すっかり学校に行けない  
体になって



何度も  
セックスを  
楽しんで



表向きは  
母の死という理由で  
引きこもって何度も





皆様のおかげで  
立派に育った  
息子でしたが……

このたび  
新しい息子を  
迎えました為

本日 充との  
お別れの間を  
設けさせて  
いただきました

# 婚姻届

平成26年5月5日届出

区長 殿

## 死亡届

| 氏名    | 性別 | 年齢 | 生年月日       | 死亡年月日      | 死亡時刻  | 死亡場所 | 死亡原因 | 医師   | 届出者  | 届出年月日      |
|-------|----|----|------------|------------|-------|------|------|------|------|------------|
| 田中 充  | 男  | 35 | 1990.10.10 | 2014.05.05 | 15:00 | 自宅   | 心臓病  | 田中 健 | 田中 健 | 2014.05.05 |
| 田中 健  | 男  | 65 | 1949.03.15 | 2014.05.05 | 18:00 | 自宅   | 肺炎   | 田中 健 | 田中 健 | 2014.05.05 |
| 田中 花子 | 女  | 60 | 1954.08.20 | 2014.05.05 | 10:00 | 自宅   | 脳卒中  | 田中 健 | 田中 健 | 2014.05.05 |
| 田中 太郎 | 男  | 10 | 2004.01.05 | 2014.05.05 | 12:00 | 自宅   | 交通事故 | 田中 健 | 田中 健 | 2014.05.05 |
| 田中 次郎 | 男  | 8  | 2006.06.10 | 2014.05.05 | 14:00 | 自宅   | 交通事故 | 田中 健 | 田中 健 | 2014.05.05 |
| 田中 三郎 | 男  | 5  | 2009.09.01 | 2014.05.05 | 16:00 | 自宅   | 交通事故 | 田中 健 | 田中 健 | 2014.05.05 |
| 田中 四郎 | 男  | 3  | 2011.12.15 | 2014.05.05 | 17:00 | 自宅   | 交通事故 | 田中 健 | 田中 健 | 2014.05.05 |
| 田中 五郎 | 男  | 1  | 2013.03.01 | 2014.05.05 | 19:00 | 自宅   | 交通事故 | 田中 健 | 田中 健 | 2014.05.05 |

それでは最後に  
故人より  
ご挨拶させて  
いただきます

ほら  
最期のご挨拶だ  
しっ  
かりしなさい

ヒッ

ア  
ー  
ッ



みなさん……  
いままでありがとうございました……

ぼくは……今日  
これから……

おわり

ああ、世間の声というものは兎にも角にも煩い。特に、正義面を取りながら、実は誰よりもアホ面下げて差別的な発言をしている、無自覚の偽善者には本当に辟易とする。  
世間様は俺のことを、鬼畜だとか悪魔だとか、まあそりゃ言われても仕方がない。  
無差別連続強姦殺人犯。ギリギリ二桁までは届かなかったが、死刑確定罪悪人。そんなことは知っている。持って生まれた性癖を分かってくれと叫ぶほどの気概はもう無い。だけど、あいつらは決まってる言う。

「あんな可哀想な子にまで、手をかけるなんて。」

俺が9番目に喰ったのは、いわゆる天使だったらしい。自閉症だかダウン症だか知らないが、ああ確かにちょっと違った。初めて犯したときから、獣みたいな声で泣いて、面白かったことを覚えてる。でもそれは俺にとっては魅力的で、他の連中ももちろん魅力的だったから捕まえたんだけどさ。それまでの8人もそれぞれ可愛かったよ。最期の瞬間まで可愛かった。そしてあの子も可愛かった。あまりに可愛くて調子に乗っていつもより早めに殺してしまった。そうだな、いつもより昂ぶっていた。だから、ヘマやってバレた。まあ、そんなこともどうでもいいんだが。

「障害者を犯した、人間のクズ。」

クズなのは認めるけど、それは俺がレイプ犯だから？ それとも天使を犯したから？  
俺は別に、あいつを弱そうとか騙せそうと思って拉致ったわけじゃない。ただ、可愛いと。それまでの8人と同じように、ただ愛しく感じた。だから犯しただけなのに。  
ニュースがピックアップするのは、俺の9番目の犯罪ばかり。  
現役教師が支援級生徒を暴行の止殺害。センセーショナルなニュースの見出しは、他の8人のことを塗りつぶしてしまうかのように下品な派手さ。チンポの数もケツの良さも他のガキと変わらなかったのにあの子ばかり特別扱いだ。

「このような、社会的弱者を狙った犯罪は後を断たずー。」

俺はあの子を最後まで特別とは思わなかった。  
他のガキと同じように、チンポぶっこんでゲロ吐くまで奥突っ込んで、色々食わせて飲ませてまた吐かせて漏らして。同じように最期まで搾取した。  
あるメディアは、あの子の障害に焦点をあて、報道した。ああなんて可哀想な被害者！同情してくださいと。  
あるメディアは、あの子の障害をとにかく隠した。禁忌だから？差別だから？腫れ物を触るように。

おかしい話だ。頭がまともだろうがイカれてようが、同じ人間。  
だから同じように暮らすし、同じように、餌食になることだってあるのに。  
何故あの子だけ、他の八人とは違う生き物のように、みんな扱うんだろな。

遺族は俺に罵声を浴びせる。涙を、怒りをぶつける。ああ仕方ない。代償は甘んじて受け入れる。  
だけどクズな俺でもその権利があるのなら、ただ、一言だけ言わせてくれよ。

俺はきっと、あの子が生まれてから出会った全ての人の誰よりも、あの子を人間として尊んだよ。  
あの憲章に則って。皆と同じ\*\*の一人として、ただひたすらに。平等に。  
最期の瞬間まで容赦なく、俺はあの子を愛してた。

「五月五日誓章」 印刷・(株)サンライズ

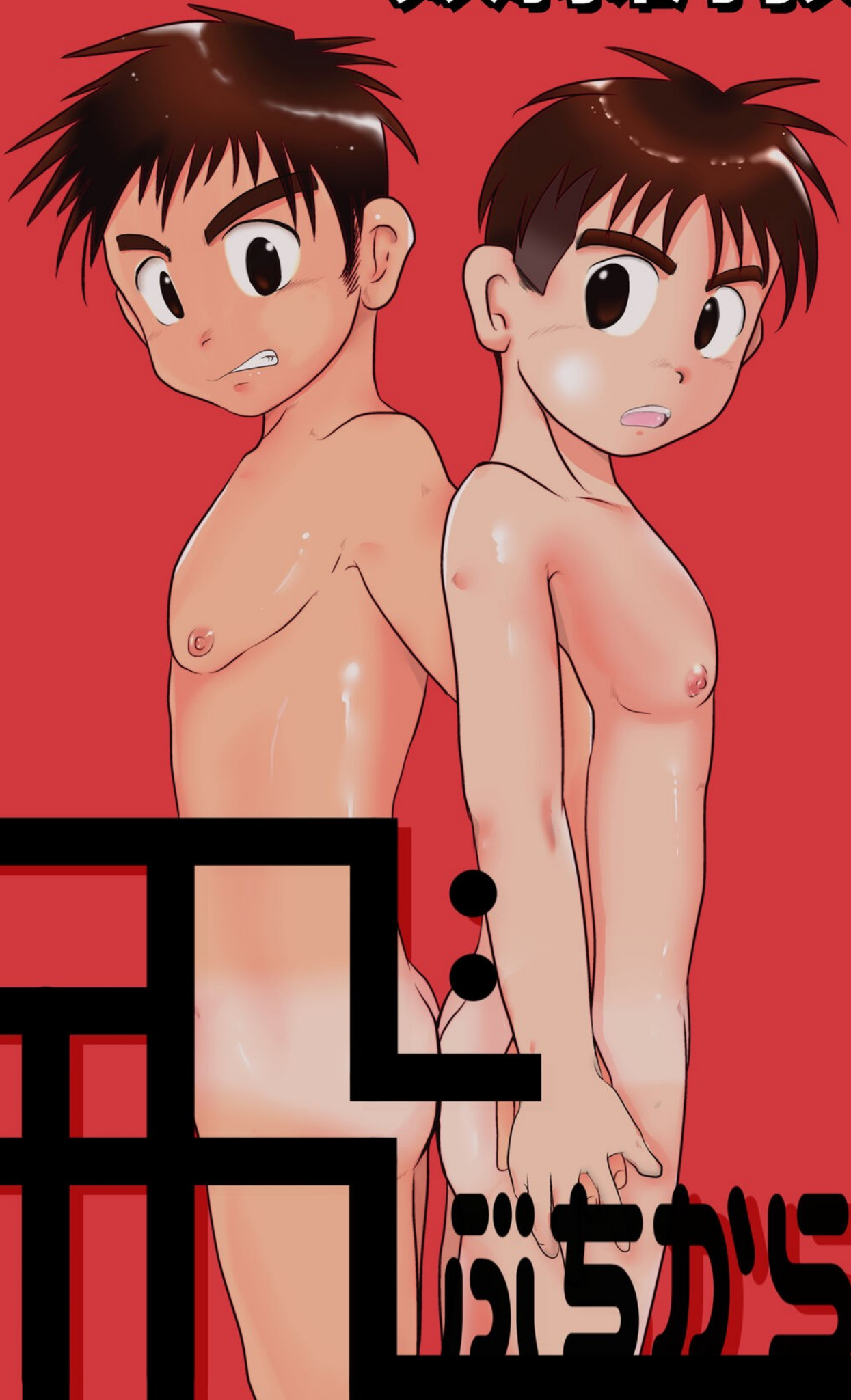
発行 2016.05.05 飛ぶちから (torikicooya@gmail.com) 無断複製・転写・転売・アップロードを禁じます

※本書は犯罪行為を推奨するものではありません。妄想と現実がつかない方の保持はご遠慮ください。  
本書を読んだことでの不快感などに関して製作者は一切の責を追いません。  
ご意見は発行元へお寄せください。本書に関してのゲスト作家への連絡はご遠慮ください。



奴隸調教 ×

泥臭系少年



●●

から